授業改善プラン

地域名	葛南教育事務所	学校名	市川市立下貝塚中学校
-----	---------	-----	------------

1. 課題 (これまでの全国学力・学習状況調査結果等から)

- ・全国の平均正答率を下回っている。
- ・特に「読むこと」「書くこと」に課題が見られ、読んで考えたことを文章に書いてまとめることが苦手な生徒が多くいることが現状である。多様な資料を読んで情報を整理すること、それらから考えを得て文章にまとめることが苦手な生徒が多くいることが課題となっている。

2. 取組のポイント (仮説、改善方法等)

- ・国語科を中心に、文章を書く時や、文章を読んで考えをもつ時のポイントを生徒が理解しやすくするために少人数指導を導入すること、ICTや「学習のてびき」を用いて、記述や対話をする場면을授業の中に多く取り入れることで、学力が向上するであろう。

3. 具体的な実践

- ・全国学力・学習状況調査の結果を踏まえて、指導計画を立てた。
- ・『『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』について共通理解を図るため、授業づくりについて考える校内研修会を実施するとともに、本プログラムの4つの過程を意識して授業計画を行った。
- ・生徒の実態を踏まえて「学習のてびき」を作成した。
- ・学習の記録を単元のはじめ、中、終わりに記述させるとともに、単元で身に付ける力を具体的に示し、生徒の主体的に学習に取り組む態度を促した。
- ・ICT端末を、生徒の作品づくりや調べ学習のために活用した。図書資料との併用を行った。

4. 成果

- ・『『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』に沿った検証授業の実践により、生徒の主体的な学びを引き出すことができた。また、本プログラムについて校内研修会を実施したことにより、全教科で授業づくりの工夫がなされた。
- ・実態を踏まえた「学習のてびき」の作成により、生徒全員が活動に取り組むことができた。

- ・学習の記録を工夫したことにより、生徒の学習状況が把握でき、必要な支援、指導をすることができた。
- ・ICTの利点を生かし、ノートや図書資料を併用しながら効率の良い学習活動ができた。

◆担当指導主事から

- ・付けたい力が明確になっていた。古典の学習で、現代の自分たちとのつながりを感じさせているのが良い。教師見本をつくることで、評価規準が明確になっていた。図書資料を豊富に活用しており、入念に準備されていることがうかがえた。豊かに表現するためには、その学習に必要な語彙を与えることも有効である。